



こころのケアチームのミニレクチャー



木村洋子 議員

## 福祉行政

# 仮設住宅入居後の孤独死は

## 未然に防ぎよう努めている

- 質問**
- ① 仮設住宅入居後の孤独死の人数と状況は。
  - ② 仮設住宅入居後の心と体のケア・支援状況は。
  - ③ 孤独死予防のため緊急プザー導入の考えは。
- 沼崎町長**
- ① 孤独死は無いものと承知している。
  - ② これまで全戸訪問による健康調査を2回実施し、支援が必要な方は関係機関に紹介したり、仮設住宅で健康相談、健康アツプ教室を行い、健康増進に努めている。心のケアについては、昨年6月から「震災こころの相談室」を開設し、10

- 月から12月には県外のこころのケアチームの協力
  - で、仮設住宅での心の健康づくり講話やパンフレット配布による啓発活動を行っている。新年度においても相談室を保健センターに設置し、精神科医、保健師、看護師の3人体制で対応する。
- 質問**
- ③ プザーの導入は考えていない。
- 質問**
- 昨年10月に山田の仮設住宅で亡くなった方は孤独死ではないのか。
- 里館健康福祉課長**
- お一人で、誰にもみとられないで亡くなられた方は1人いると認識している。
- 質問**
- 高齢者や病弱な人の安全のため、プザーの設置が必要と考えるが。
- 里館健康福祉課長**
- 見守り活動と安否確認を必要とする方には、緊急通報システムで対応する。

◆ 学校給食について  
そのほかの質問

## 町の考えを聞く

### 健康行政

## 子宮頸がん予防ワクチン接種の状況は

## 中学1年生を対象に実施

**質問** 子宮頸がん予防ワクチン接種の状況と問題点は。

また、接種を広めさせるために接種年齢を拡大させてはどうか。

**沼崎町長** 1月末現在、中学1年生女子99人中62人が予防ワクチンを接種した。問題点は接種料金が高額なことなどで、接種年齢の拡

大は考えていない。

**質問** 女性の一生に関わる大切な予防ワクチンであるので多くの生徒に接種すべきと考える。昨年は震災で家庭も落ち着かず接種できなかったのでは。

**沼崎町長** 平成24年度も中学1年生を対象とするが、23年度に接種できなかった生徒については考慮する。